

## 6 説明的文章1 要約する

組	
番号	
氏名	

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

- ① 言語はわれわれの話をするための道具であるが、またむしろ考えるための道具である。言語なしに「考える」ことはできそうもない。動物心理学者はなんと教えるか知らないが、<sup>1</sup>私には牛馬や鳶鳥が物を「考える」とは想像できない。考<sup>1</sup>えの式を組み立てるための記号をもたないと思われるからである。聾<sup>ろう</sup>啞<sup>あ</sup>者には音響の言語はないが、これに代わるべき動作の言語がちゃんと備わっているのである。
- ② 数学では最初に若干の公理前提を置いて、あとは論理に従って前提の中に含まれているものを分析し、分析したものを組み立ててゆくのであるが、われわれの言語によって考<sup>1</sup>えを運んでゆく過程もかなりこれと似たところがある。もちろん、数学の公理や論理はきわめて簡単明瞭であり、使用される概念も明確に制定されているに反して、言語による思考の場合では、これらのすべてのものが複雑に多義的であるから、一見同様な前提から多種多様な結論が生まれ出るように見える。しかし実際の場合に前提の数が非常に多いから全く同一な前提群から出発するといふ事は実はあり得ないのである。

(中略)

- ③ <sup>2</sup>語学を修得するにまず単語を覚え文法を覚えなければならぬ。しかしただそれを一通り理解し暗記しただけでは自分で話す事もできなければ文章も書けない。長い修練によってそれをすっかり体得した上で、始めて自分自身の考<sup>1</sup>えを運ぶ道具にする事ができる。
- ④ 数学でも、ただ教科書や講義のノートにある事がらを全部理解しただけではなかなか自分の用には立たない。やはりいろいろな符号の意味をすっかり徹底的にのみ込む事はもちろん、またいろいろな公式をかなりの程度まで暗記して、一度わがものにしてしまわなければ実際の計算は困難である。
- ⑤ それで語学も数学もその修得は<sup>いっき</sup>か<sup>せい</sup>にはできない。平たくいえば、飽きずに急がずに長く時間をかける事が、少なくとも「必要条件」の一つである。

